

# 台湾研修報告書

教育文化学部 教育学科 初等教育コース 2年

## 1. はじめに

まず、今回台湾研修に参加した理由を2つ紹介します。

1つ目は、全員ができる経験ではないと思ったからです。海外に行って授業ができるという環境は誰にでも与えられるチャンスではなく、自分で掴むチャンスだと思いました。そして、自分自身海外に行くことが初めてで、大学生のうちに海外に行くという目標を達成したかったからです。

2つ目は、将来海外で働きたい、海外に住みたいという、海外への強い憧れがあるからです。日本は素晴らしい国ですが、海外に行って日本との生活の違い、文化の違いを感じながら生活したいからです。おばあちゃんになっても、刺激を感じながら生活したいと思っています。なので、今回の台湾研修に参加することで海外と日本の違いを五感で感じたいと思ったからです。

以上が私の台湾研修に参加した理由です。

## 2. 台湾研修で学んだこと・感じたこと

台湾研修では、2日間で2つの学校を訪問し、交流授業をさせていただきました。

1校目は、台北市内にある私立立人(リーレン)国際国民小学校附属幼稚園を訪問しました。交流授業では、日本の伝統的なおもちゃである「けん玉」を園児たちと一緒に作成し、一緒に遊んで交流しました。



この日に初めて台湾の子どもたちと交流をしてみて、もともと日本語が通じないということは分かっていたのですが、実際に交流してみると、全然自分の伝えたいことが伝えられなくて作業の説明をするのが想像以上に難しかったです。そして台湾には、けん玉が存在しないため、子どもたちはけん玉を全く知らないのが実態で、何かわからない作業が子どもたちにあったとしても何がわからないのかわからないことも大変でした。

短い時間の中で、けん玉を作り終えることはとても難しいことでしたが、園児たちの協力もあり、授業は成功したと思います。画像にあるように、園児たちとは紙コップを使ってけん玉を作りました。なので、実際のけん玉よりは難易度は低かったと思います。でも、園児たちはけん玉をやったことがないため、体の使い方が分からず最初は苦戦している様子が見られました。しかし、園児たちに見本を見せたり、けん玉は膝を使うことがコツなので、園児たちの膝を曲げて伸ばす動きを補助したりして、何人かの園児たちは成功していました。台湾の幼稚園児は、失敗を恐れずにけん玉に挑戦している様子が印象的でした。日本人は、私もそうですがどうしても「失敗」に対してマイナスなイメージがあると思います。でも、台湾の園児たちはあまり失敗を恐れずに、みんな積極的に活動に参加してくれました。

交流授業の前と後に、リーレン国際国民小学校附属幼稚園の校長先生、園長先生とお話させていただける機会を設けていただきました。まず、私が第一に受けた印象は、学校の顔に「女性」が多いということです。日本では校長先生や園長先生は「男性」が多く、総理大臣のように物事の長には「男性」が就任しているイメージがあると思います。昔の日本には「男尊女卑」という言葉があったように、今は男女平等が謳われていますが残念ながら今でも男性が優先されてしまうことが多いと思います。しかし、私は台湾では女性の方がリーダーを務めることが多いのかな、という印象を受けました。その受けた印象をナタリー先生に話して

みると、やはり「台湾の女性は強い」という話をしてくれました。日本は、結婚したら専業主婦になる女性が多いですが、台湾では結婚しても自分で車を買えるくらいまで働くそうです。大統領も女性の方が多く、日本では考えられないなと思いました。きっと日本も女性がリーダーとして活躍できる、物事を決められる機会をたくさん設けると、もっといい政治や、物事を円滑に進めたりすることができるのかなとも思いました。そして、立人国際国民小学校の校長先生と園長先生と話して感じたことは、先生だけでなく子どもたち同士もお互いのことを理解することがいい教育をすることにつながるということです。立人国際国民小学校は、私立のインターナショナルスクールであるため様々な国から入学しています。台湾と日本のようにアジアの国であっても文化の違いをたくさん感じるがありました。おそらく、ヨーロッパやアメリカの方に行くと肌の色や目の色のように外見も大きく違ったり、きっと文化も日本以上に大きく異なったりすると思います。自分が育ってきた環境とは全く違う環境で育った子どもたちが同じ学校で共同生活をするためには、お互いに理解しあうことが必要なのかなと感じることができました。

2校目は、台北市立建安(ケンアン)国民小学校附属幼稚園を訪問しました。この学校は、スポーツと芸術に特に力を入れており、市立にしては珍しい学校でした。この学校では、交流授業を2時間分させていただきました。1時間目は、幼稚園で「桜の木を作る」という活動をしました。



この活動は、白い模造紙をつなぎ合わせ、桜の木の幹や枝を園児たちと一緒に茶色の画用紙をちぎって張り、そこに、のりの代わりとしてピンクの絵の具を手につけて白い模造紙の上にスタンプしていきます。その絵の具が乾く前に事前にちぎっておいたピンクの紙吹雪をその模造紙の上に散らして、左の画像のような大きな桜の木を作るというものでした。園児の食いつきがものすごく、大人も園児も一緒に楽しむことができる活動でした。

ピンクの紙吹雪を散らす活動が園児にとってもハマって、本来は紙吹雪を散らすのは1回の予定でしたが、園児からアンコールがあったため、2回紙吹雪を散らすことができました。この授業は、担当クラスの男の先生がとてもパワフルで、その先生にたくさん助けていただきました。そのおかげで、一時間目の活動は成功に終わりました。

2時間目は、小学校6年生の美術クラスを対象に「万華鏡づくり」をしました。台湾でも万華鏡は知られていますが、今回は材料に和紙を使って日本をイメージして装飾し、万華鏡を覗いたときに日本の四季を感じられるように制作してもらいました。

私が最初に不安だったことは、やはり言語の壁でした。1校目の立人国際国民小学校はインターナショナルスクールであったため、英語を使えば少し通じる部分がありました。しかし、この学校は美術とスポーツに特化している学校であるため、台湾語しか通じないと思っていました。しかし、私のグループには日本人の児童がいたのでその子に通訳してもらいながら、わりと円滑に活動を進めることができました。学級の実態としては、日本の小学校6年生よりも英語が堪能で、全く台湾語が話せなくても簡単な英語を使えば会話をすることができました。発音もきれいで、とても聞き取りやすい英語だという印象を受けました。



私は、今回の台湾研修で1番学ぶことが多かった場所は、台北市立建安国民小学校です。私は、現在母校の幌向小学校でボランティアとして学習支援員をさせていただいています。幌向小学校と建安国民小学校では大きな違いがありました。それは「ICTの活用」です。私の母校はICTを積極的に取り入れています。どの授業でもiPadを使っていて、私が小学生のときよりも授業の質は向上し、先生の負担は軽減されたと思います。しかし、授業に関係のないアプリを開いたり、意見を書くスペースに落書きをしたりと授業中の集中力は低下してのではないかという印象も受けていました。作文もiPadを使って打ち込むため、漢字が読めるけど書けないという児童も増加しているとも思います。それに比べて台湾の学校は授業中にiPadを使っている様子は見られませんでした。台湾の学校ではICTの活用は「調べ学習のみ」にしていると校長先生がおっしゃっていました。日本のようにどの授業でもICTは活用していないらしいです。ICTを活用することで授業の質は向上し、先生の負担は軽減されるけど、実際台湾の方が平均的に学力は高いという結果が出ているので、自分が教員になったらICTをどれくらい授業に取り入れるかをしっかり考えたいと思いました。

### 3. まとめ

今回の台湾研修では文化の違いや学校の設備の規模の違いを肌で感じることができ、もっともっと幅広く学ぶことが必要であるということを痛感しました。「台湾の子どもたちは失敗を恐れずに活動ができる、日本の子どもたちは失敗しないように活動することができるけど、誰かが動かないとなかなか動けない、じゃあ日本の子どもたちはどうすればファーストペンギンが増えるのか?」「失敗を恐れずに活動してもらうにはどのように授業をつくるのか?どのように学級経営をすればいいのか?」というように、講義では学ぶことのできない、感じることのできない様々なものを体感することができました。この台湾研修は自分にとって、とてもいい経験になりました。ただ行って終わりの研修ではなく、帰国してからも台湾での授業を振り返ることが多く、とても学びが多い研修にすることができました。

そして、今回の台湾研修があまりにも自分の中で大きな経験になったため、大学在学中にもっといろいろな国を訪れ、短期でもいいので必ず台湾に留学に行こうと決心しました。初めての海外はとても不安で、とても怖かったけど、様々な人に出会い、助けられ、学ばせてもらえて、本当に素晴らしい経験をすることができました。